

# あびこ型「地産地消」推進協議会

あびこ型「地産地消」推進協議会はあびこ産農産物による「地産地消」の推進、食育等の普及活動をしております



2008年4月24日の第5回総会後のフォーラム 8、9 ページを参照下さい



## 目次

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 「あびこ農産物直売所」一周年記念祭 ……2,3    | 総会とフォーラムの報告…8,9,10 |
| あびこ型[地産地消]推進協議会の設立と経過Ⅱ・4,5 | 生産者基準評価委員会 Q&A…11  |
| 援農ボランティア養成講座の参加募集3 ……6,7   | お知らせ・編集後記…12       |

発行 あびこ型「地産地消」推進協議会  
〒270-1155 我孫子市我孫子新田22-4  
Tel 04-7128-7770 FAX 04-7128-7771  
URL: <http://www15.plala.or.jp/chisan/>  
Mail: [abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp](mailto:abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp)

会長 遠藤 織太郎  
あびこ農産物直売所内

## 「あびこ農産物直売所」一周年記念祭

「あびこ農産物直売所」は6月1日でオープン1周年を迎えました。スタッフと農家からお客様に感謝を込めて5月31日と6月1日に一周年記念祭が行われました。

直売所の敷地ではカラフルな服を着たカカシ13体がお客様を歓迎してくれました。これらは豊島順子さんのご家族と親戚の皆様が作ったもの。カカシと写真を撮る子ども達の姿も多く見られました。またイベントですっかりお馴染みの農政課・清水豪人さん扮する「大根くん」が登場し、人気者になっていました。

「今から大根おろし競争が始まります！」齋藤寿義店長の威勢のいい声が響き渡ると、出場者と応援のギャラリーが続々と集まりました。参加費100円を支払った5人の出場者は、くじで好みのおろし金を選び、おろし易い大根を決めて右手に軍手をはめてスタンバイします。大人は20秒後、大根くんは30秒後にスタート、というハンデがついています。店長の笛で1分間の大根おろし競争がスタート。終了の笛が鳴ると一人ずつ計量して、大根くんよりも多くすりおろした人が勝ち、となります。勝った人にはメロンか、こだまスイカをプレゼント。



負けてもプリンかお菓子がもらえる、という楽しい企画でした。実際にバトルに参加すると、大人も子どもも真剣になります。竹でできた鬼おろしを使う人の、スピードと勢いにギャラリーはびっくり。マドンナ対決や小学生対決も見物でした。

大根くんの「かかってこいやー！」という勝利宣言、そして店長の軽妙な司会でギャラリーは大爆笑の渦に包まれました。ちなみに大根を提供した生産者の田口忠さんによると、たまった大量の大根おろしは畑に肥料として返すそうです。環境にもやさしいですね。

「かあちゃんのかまどプラス」のテントでは、手作りの加工品や我孫子産の米の粉を使ったお菓子などが各種並びました。試食できるので、多くの女性客が興味津々でのぞいていました。どら焼、マドレーヌ、りんごケーキ、ゆべし、シナモンポテトはどれも程よい甘さでした。おからドーナツもヘルシーで美味しかったです。お昼にはコロッケや焼そばや赤飯、もつ煮がよく売れていました。

一方、我孫子市農業青壮年会議のテントでは、アンケートに答えるとプレゼントがもらえました。展示されてる地元の農産物の中で良いと思うのを





## 祝一周年記念祭



①米、②野菜、③卵・加工品、④花卉からそれぞれ1点を紙に記入するというものでした。

直売所のレシートまたはチラシを持参すると、先着500人には花かイチゴの苗か紅白のお餅がもらえました。テントの前には行列ができて、プレゼントはあっという間になくなりました。隣のテントからはりんごとメロンを販売する威勢のいい声が聞こえていました。箱ごと購入するお客さんもいました。

あびこ型「地産地消」推進協議会の活動内容を書いた展示パネルと、家庭菜園等の栽培相談コーナーにも、関心を寄せる人が集まりました。その横では楽しい音楽が流れ、わた菓子の販売があり、カラフルな風船を片手に子ども達が嬉しそうに食べていました。

6月1日の午後には今村賢之助さんによる大道芸のパフォーマンスがあり、ドラえもん風船がもらえるとあって子ども達を取り囲みました。タバコの吸殻を入れるので灰皿かと思いきや、入れ物のふたを開けると白い鳩が出てきてびっくりしました。3本のタバコを口に含み、その上に

ティッシュを詰め込み、煙を口から吐く芸には、大人も子どもも釘付けになっていました。

「大根くん」こと清水豪人さんは、この1年間を振り返って次のように語っています。「現場の斎藤寿義店長や藤代健一さんと一生懸命やってきた。どうやったら多くのお客様に来てもらえるか、いつも頭を悩ませていた。今年になって中国産野菜の問題が起きてから、急に地場産の野菜が注目を浴びるようになり、売れ行きが良くなったと思う。もっと多くの人にこの店で地場産の野菜を買ってもらうために頑張らなくては…と感じている。農家とあびこ型「地産地消」推進協議会と協力して、これからも直売所を盛り上げていきたい。このイベントをきっかけに直売所がより賑わい楽しい雰囲気になって、新しいリピーターが増えれば…」と、清水さんの言葉には実感がこもっていました。

皆の期待通り、記念すべき6月1日にはお天気も味方してくれました。多くの人に1周年を祝ってもらい、店長やスタッフや大根くん達の若さ溢れるキャラクターの活躍で、大賑わいの2日間でした。 記事 松山 理絵



## あびこ型「地産地消」推進協議会の設立と経過 II

当協議会は、あびこエコ農産物による「豊かで住みよい“農あるまちづくり”」を推進する協議会として設立され、今年で設立5年目を迎えました。かたや

我孫子市では、「地産地消」の推進をはかる拠点施設ともなる、“農産物直売所を設置するため、基本設計及び実施設計等をおこなっています。”これについて市民は、注目と期待とをもって経過を見ていると思います。

さらに あびこ型「地産地消」を推進するため、この設立とその経過に関連した、我孫子市の施策の一部を抜書きしてみました。ご参考になればと思います。

### <以下 我孫子市の施策より 抜書き>

我孫子市 第三次総合計画は、市のまちづくりの基本となる計画であり、将来のあるべき姿を示すものです。

#### Ⅲ. 施策の大綱 2)産業 (2)

- ・農業の生産性を高め、安定した農業が営めるように農業支援をすすめます。
- ・生産者と消費者がお互いに信頼することで、品質と安全性の高い地元農産物が地元を中心に消費される農業の確立をめざします。また、農業の持つ多面的機能を大切にします。

### <我孫子市環境基本計画実行計画。より抜書き>

#### (2) 環境を活かしたまちの活力づくり

##### 1) 環境保全型農業に挑戦する。

- 地産地消の都市農業を確立し、環境保全型農業へ挑戦する(P74)

施策展開の方向性	第Ⅱ期～ 2006年度～	第Ⅲ期～ 2011年度～
地産地消の都市農業の確立	農産物直売所への支援策の充実 (農政課)	
環境保全型農業への挑戦	有機、無農薬又は減農薬栽培農家の ネットワークづくり (農政課)	
都市住民と農業の交流の機会 と場づくり	農業塾、農業ボランティア制度、 援農ヘルパー制度など都市住民が 農業へ参加するための農業研修の 実施 (農政課)	

下記は、我孫子市「市政ふれあい懇談会」での、市長、市職員と、市民との懇談の席での意見から、農業関連を抜書きしたものです。ご参考になればと思います。

我孫子市、市政ふれあい懇談会でいただいた意見と、懇談会での回答および第二次基本計画案の内容との関連について

[我孫子南地区]・開催日：平成20年1月9日(土)午前 会場：我孫子南近隣センター  
意見：農業関係は無し。

[我孫子北地区]・開催日：平成20年1月9日(土)午後 会場：つくし野コミュニティーホール  
意見：子どもたちへの食育を推進してほしい。  
：地産地消を推進してほしい。

[天王台地区]・開催日：平成20年1月20日(日)午前 会場：天王台北近隣センター  
意見：エコ農産物の普及に向け、農業者への協力を強く呼びかけて欲しい。

[湖北地区]・開催日：平成20年1月20日(日)午後 会場：湖北台近隣センター  
意見：農産物直売所はかなりの赤字が出ていると聞いている。  
今後も赤字を垂れ流すくらいなら、すぐやめるべき。  
：地産地消、エコ農産物の普及や子どもたちへの食育を推進してほしい。

[新木地区]・開催日：平成20年1月26日(土)午前 会場：新木近隣センター  
意見：農業関係は無し。

[布佐地区]・開催日：平成20年1月26日(土)午後 会場：布佐南近隣センター  
意見：農産物直売所について、今後どのような計画があるのか。

転載：杉山

※ なお、この全文は、我孫子市の資料室で閲覧するか、我孫子市役所ホームページでご覧ください。この回答については市の議事録にあると思います。

以上をふまえ是非、当協議会に対するご意見をお聞かせ下さい。

# 援農ボランティア養成講座の参加者募集

## 1. 趣旨

我孫子市の農業は、単に農畜産物の生産だけではなく、環境、景観、食育、癒し、文化の伝承等さまざまな形で大切な役割を果たしています。

しかし、今、農家の多くは高齢化や労力不足等の大きな問題に直面して、農業経営を持続させていくことが大変困難な現況です。

「豊かで住みよい「農ある街づくり」」を実現するため、市民参加で持続・発展させることが望まれております。農業未経験者でも結構ですので、現在活躍している援農ボランティアの方々と共に汗を流してみませんか。

なお、本講座ではこの援農ボランティアの実践に必要な基礎的知識と実技の講習を行います。

## 2. 主催者 あびこ型「地産地消」推進協議会

## 3. 養成講座プログラム及び概要 別記のとおり

## 4. 募集要領

(1) 募集人数 先着 15人

(2) 参加費 無料(但し、農作業実習の際は、靴、手袋、飲み物等各自持参)

### (3) 応募資格

① 我孫子市に在住している方

② 受講終了後、平成20年12月以降から援農ボランティアに参加できる方

### (4) 開講式

・ 日時 8月23日(土) 午前10時00分から午後12時00分

・ 会場 市役所分館大会議室

### (5) 申込み方法

① 電話またはFAXであびこ型「地産地消」推進協議会まで

電話 7128-7770

FAX 7128-7771(氏名・住所・電話番号記入のうえ)

② 申込み締め切り 8月8日(金)まで

(6) 問い合わせ(申込み) あびこ型「地産地消」推進協議会(日・水・祝日休)

(別記) 養成講座スケジュール

日 程	時 間 帯	内 容	会場その他
8月23日(土)	10:00~12:00	開講式・概要説明	市役所分館 大会議室
		援農ボランティア 入門高座	
8月30日(土)	13:00~16:30	農作業実習 (農家の畑や施設で 種まき・定植・除草 等の実地講習)	市内の農家
9月 6日(土)	13:00~16:30		
9月13日(土)	13:00~16:30		
9月27日(土)	13:00~16:30		
10月 4日(土)	13:00~16:30		
10月11日(土)	13:00~16:30		
10月18日(土)	13:00~16:30		
10月25日(土)	13:00~16:30		
11月 1日(土)	10:00~12:00		

(注1) 農作業実習の日程については、天候の都合等により中止又は変更になる場合があります。

(注2) 各会場とも現地集合  
(但し、農家での「農作業実習」については、市役所前から送迎有り)



## 第5回総会とフォーラムの報告

日時 平成20年4月24日(木)午後1時30分～4時

会場 市民プラザ(あびこショッピングプラザ3階)

### I部 総会

出席者45名、委任状35通、合計数80で、会員数177の20%以上となり、総会が成立しました。以下の議案が承認されました。

第1号議案 平成19年度活動報告

第2号議案 平成19年度収支決算報告、監査報告

第3号議案 会則の一部改定案

第4号議案 平成20年度活動計画案

第5号議案 平成20年度収支予算案

第6号議案 新役員を選出案

報告事項Ⅰ 新評価委員会の構成

報告事項Ⅱ 環境保全型農業の推進

別紙 議事録 参照



## Ⅱ部 フォーラム

### 1. 基調講演

『当「協議会」の活動について ～消費者の食の安全・安心への高まりと協議会の役割～』と題して遠藤会長が当協議会の活動内容について説明しました。

### 2. パネルディスカッション

『安全・安心・新鮮・おいしい、顔の見える農産物について～消費者・生産者が期待する「あびこ農産物直売所」～』

コーディネーター 遠藤会長

パネラー

星野順一郎(我孫子市長)  
和田三千代(我孫子市消費者の会会長)|  
高田幸雄(我孫子市農業青壮年会議会長)  
野口和子(湖北中学校栄養士)  
斉藤寿義(あびこ農産物直売所店長)  
大炊三枝子(同店出荷組合加工部会長)



各パネラーより、あびこ農産物直売所の取組みと地産地消活動などへの注文、期待などについてそれぞれの立場からの貴重なご意見を頂きました。以下にその一部を記します。

農業経営が出来るよう農家をバックアップしなければならない。  
その視点を大事にすべき。



もっと地元野菜を安定供給できる状態にしなければ、直売所も給食への食の安全について市の関わりのあることは良いことである。

もっと出荷農家数、商品数を増やさなければならない。消費者がカレーセット、サラダセットくらい購入できるようにしなければならない。  
安定して売れるということが協力農家の増加に繋がるのだろう。

地元の農家と消費者の意見を聞きながら食の安全・食育を進めるべき。

消費者は商品の表示を見て買う。生産者が栽培履歴を作成するのは大変だろうけど、是非、農家の理解を得ながら、消費者に安全・安心な野菜を提供して欲しい。

今のアンテナショップには行けない。足がない。自転車しか乗れない人は大変である。

交通手段の確保をして欲しい。料理の講習会を出来るだけやって欲しい。

新品種・品目の拡大は大変だろうが、出来るだけ挑戦して欲しい。

給食には条件・制約があり、地元野菜を使うには様々なハードルがあるが、給食に納品された地元野菜は良い品質だった。今まで以上に多く揃うと有り難い。子供達に地域の農業に関心を持たせ、感謝の気持ちを持たせたい。

世の中で出回っている野菜の生産履歴の殆どは農家が書かずにJAが書いているだろう。あびこ農産物直売所では栽培履歴を農家自身が書いて、顔の見える直売所にしたい。

地元の野菜を売るためには地元以外の仕入品、肉・魚も揃えるとメリットがある。農産物の拠点と言うよりも、食の拠点として欲しい。

直売所出荷組合加工部会では新商品の開発に努力している。特に最近では米粉を入れている。イベントにも参加して頑張っている。

今の出荷組合加工部会の部員数と品目数では本格施設で対応できないだろう。出したい加工品はあるが、その為には保健所の許可を得た加工所があることが条件となり、多くの資金が必要となる。共同の加工所を設けるにはどうすれば良いか知恵を借りたい。

一店で全てが揃えば強みである。野菜の加工品を揃えるという視点は必要だろう。

直売所で当初、地場産野菜だけ売っていたら需要と供給のアンバランスが生じ、お客さんが減った。その為、仕入もするようになった。

それぞれの農家がどういう理念でどのように作物を作っているか？それを消費者に判ってもらいたい。農家作った作物を消費者に食べてもらい感じ取ってもらいたい。

